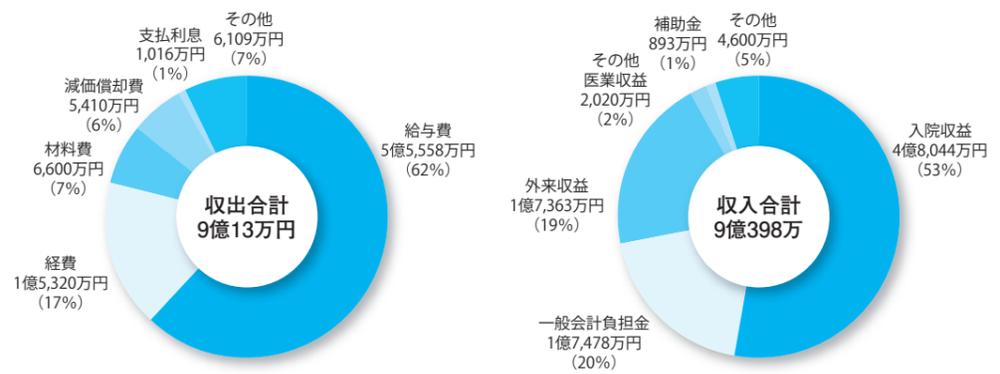


平成25年度 町立病院事業 会計決算

より一層の経営改善に努めていきます。



平成25年度の概況

平成25年度は、和水平立病院改革プラン5年目の計画最終年度であり、また、経営形態を地方公営企業法の一部適用から全部適用へ移行した初年度でした。課題であった医師の確保については、平成25年4月に市原地域医療センター所長(消化器内科)を迎え、これまでの常勤医師4名から5名となり、看護師についても52名と10対1看護体制を維持し、良質な医療の提供に努めました。

これらの結果、平成25年度の決算は、収入が9億3,980万円、支出が9億1,300万円となり、3,850万円の黒字となりました。

※「和水平立病院改革プラン」とは…

約8割が累積赤字を抱える公立病院に経営改善を迫るため、総務省は平成19年に「公立病院改革ガイドライン」を策定。自治体に対し、平成20年度中に改善策をまとめた「改革プラン」の策定が義務化される。プランでは、経営の効率化、再編、経営形態の見直し等の具体的な改革が盛り込まれている。当院では、平成21年3月に策定し、平成21年度から平成25年度までを計画期間としている。

患者数などの状況

平成25年度の利用状況は、入院患者延数は23,938人でした。1日当たり65.6人、病床利用率は66.9%と前年度から増加しました。外来患者延数は26,738人でした。

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

12

大田 幸博

(元・菊水町史編集委員会副委員長)

8

月の天気予報図には、連日、傘と雲マークが並び、まるで、梅雨の様な天気でした。青空にギラギラと輝く真夏の太陽は、どこへ行ったのでしょうか。季節は、このまま秋に入ります。

I郭(西縁33の下)

南北34mの範囲で、石切り場跡(凝灰岩壁)に残る地形を調査しました。上段33との高低差は、7mもあります。この区画は、城時代に造成された带状削平地の可能性がありますが、石を切り出す際に手加えられて、複雑な地形に変化したと思われる。図面を作成しましたが、どこまで遺構かとの判断は、出来ませんでした。

K区(II郭南縁)

第2衛生センターからの上り凹道が、途中で、II郭南縁を造成した50に、吸収されています。南下の51と共に、大規模な削平地で、造成の度合いが高いのが特徴です。

50は、標高50~48m、全長85m、幅10~3.5m、東端下の50-1は、高低差1m、長さ8m、幅8~5m、一方、南西端は、1m幅にぐびれて通路となり、III郭への尾根道に繋がっています。

51は、標高48~47m、全長63m、東端で最大幅9.5m。西端は、すばまっています。さらに、南西上の51-1は、造成の

度合いが低く、高低差1mの緩傾斜地となります。後述の空堀の北肩部にもなります。

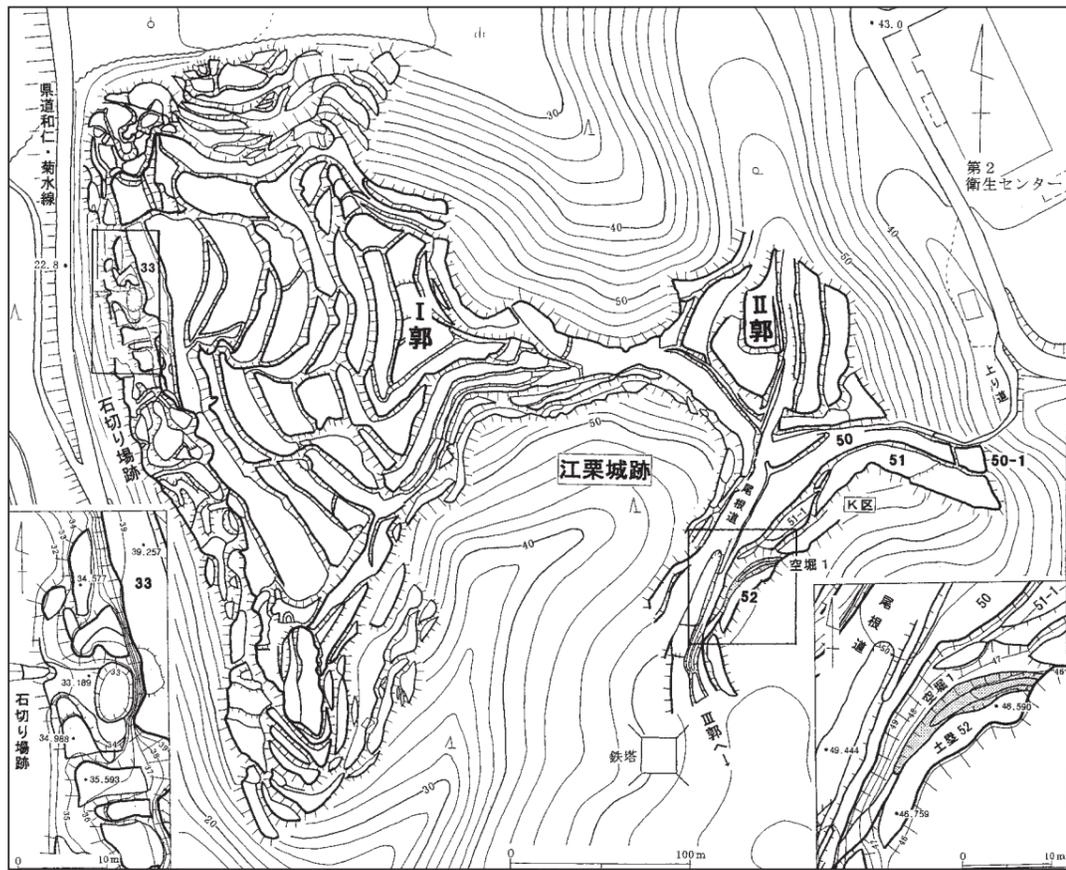
空堀1

下草伐採により、発見された遺構です。52は土塁の基底部で、標高46.4m、全長24m、幅3~2mで、空堀の南肩部にあたります。空堀を造成する時に、排土を積み上げたものです。これに対して、現存の空堀は、底部幅1m、標高46m、南北両肩部幅は、最大で3.5mを測ります。空堀は、40cmの深さです。後世に土塁が崩されて、空堀が、大方、埋め戻されたことが分かります。降雨時は、堀底の一部に雨水が溜まります。

このエリアは、まだ、南下一帯が未伐採です。今後、作業が進めば、下位の造成地で、空堀の延長部分が見つかる筈です。このような空堀は完全に埋め戻して、畑地などに転用しますので、よく残ったものと思います。

この空堀は、平時において、集落の裏側から上る通路でもあったと思われる。実際、空堀の上位は、小さな凹道に変化して、III郭に通じる尾根道に上がっています。

空堀は、城の搦め手(裏手)を守る防御施設であったと推定されます。その意味から、50に上がる凹道は、後世の造成でしょう。



I郭西縁33の下・拡大図 江栗城跡I・II郭 縄張り図 空堀1・拡大図

1日当たり109.6人で、前年度と比較すると4人増加しました。これは、常勤医師が1名増えたことが大きな要因としてあげられます。また、夜間・休日の救急患者の受け入れ人数は1,727人であり、うち救急車搬送人数は114人でした。

なお、健康管理センターでの健診受診者延数は2,314人、居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数は1,468件、訪問看護ステーションの利用者数は364人、延訪問回数は1,753回となっています。

平成26年度も医療の質を確保しながら、より一層の経営改善に取り組んでいきます。

平成24年度との比較	平成24年度		平成25年度	
	入院	外来	入院	外来
患者数	22,911人	26,200人	23,938人	26,738人
診療単価 (患者1人・1日あたり)	入院	19,839円	20,070円	
	外来	6,376円	6,494円	
病床利用率(一般および療養)	64.1%		66.9%	
年間新入院患者数	535人		516人	
平均在院日数	17日		17日	

改革プランの実績	平成24年度(実績)							目標値
	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	
経常収支比率	97.0	102.3	104.7	104.5	98.8	98.7	100.8	100%以上
職員給与比率	67.9	65.0	69.0	68.2	71.4	69.4	68.0	65%以下
病床利用率(療養)	81.6	90.4	93.4	90.7	88.2	81.6	86.2	
病床利用率(一般)	63.2	57.4	54.6	51.6	51.8	50.9	52.5	70%以上

用語の説明	
経常収支比率	経常的な経営活動に伴う収益から費用を差し引いたもの。この数値が100%を超える場合は経常黒字、100%未満であれば経常赤字を示す。(経常収益/経常費用)×100
職員給与比率	病院の職員数などが適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営のポイントとなる。(職員給与費/医業収益)×100
病床利用率	病院の施設が有効に活用されているかどうかを判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合は、病床規模が適切か否かを検討する必要がある。(年延入院患者数/年延病床数)×100